



～新技術の普及・拡大に向けて～
情報化施工現地見学会を開催

関東地方整備局長野国道事務所並びに北陸地方整備局千曲川河川事務所、松本砂防事務所、大町ダム管理所では長野県内における情報化施工の普及・拡大を図るため、県内土木技術者を対象に下記のとおり「情報化施工現地見学会」を開催します。

- 開催日時：平成25年10月8日（火）14:00～16:00
- 開催場所 飯山市蓮地先^{はちす} 「蓮築堤工事」^{はちす}
- 内容：（1）TS（トータルステーション）による出来形管理
（2）ブルドーザによるマシンコントロール
（3）TS・GNSSによる締め固め管理
（4）バックホウによるマシンガイダンス

【見学会参加団体】

- ・長野県建設業協会
 - ・日本建設機械施工協会
 - ・建設コンサルタンツ協会
 - ・日本建設機械レンタル協会
 - ・日本道路建設業協会
 - ・日本建設業連合会
 - ・国土交通省長野国道事務所
 - ・国土交通省千曲川河川事務所
- 等約90名

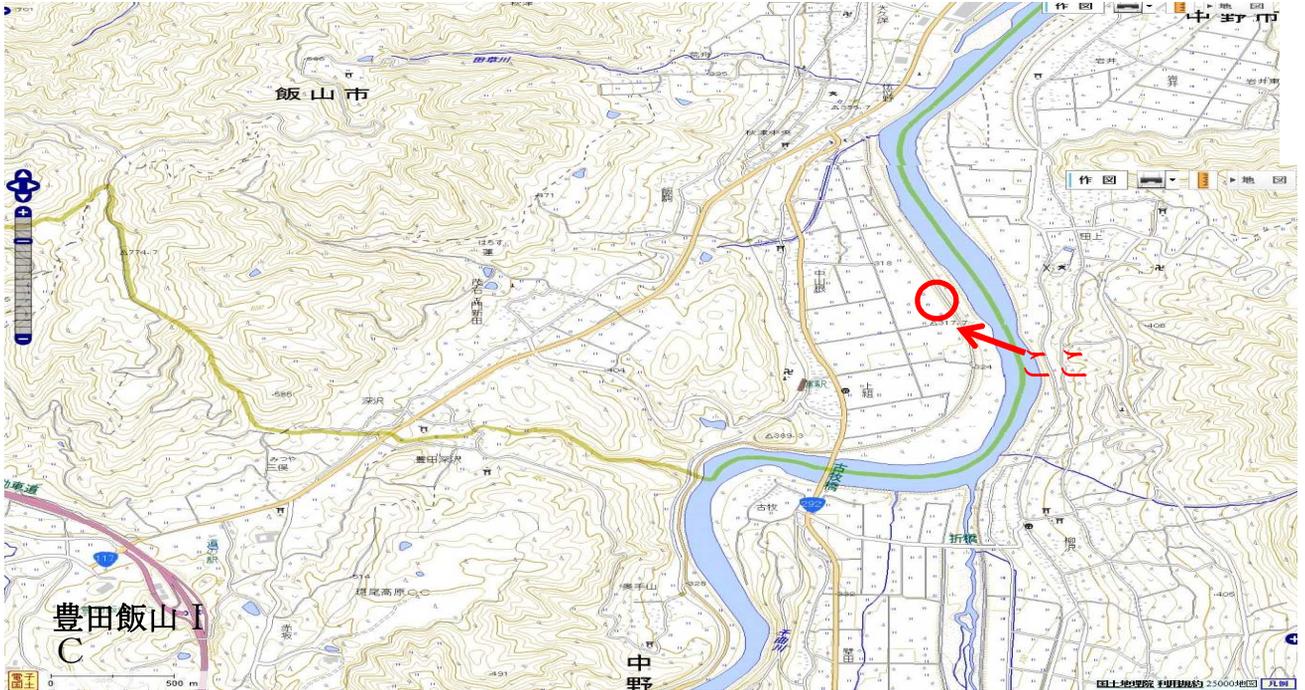
見学会は取材可能です。

【お問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局
千曲川河川事務所 026(227)7611
工事品質管理官 宮下 茂



●見学会会場へのアクセスマップ



<拡大図>



●情報化施工のイメージ

現在、建設現場では汎地球測位航法衛星システム(GNSS)やトータルステーション(TS)などの高度な測位システムの導入が進み、測量や検査に使用されています。このような情報通信技術(ICT)と電子化された施工図などのデータを活用することによって、施工現場では測量などの計測作業の合理化、建設機械の自動制御やナビゲーションによる品質、精度の向上、丁張なしでの施工による施工効率の向上が期待できます。また、出来形管理においても施工中のデータを電子的に記録できることから、任意点での計測が容易となり、施工者の品質管理・帳票作成作業、発注者の監督・検査業務においても、効率化できることとなります。

従来

巻き尺による計測



手書き
40m毎に
計測データを野帳
帳に記録



出来形管理資料作成
記録をパソコンに手
入力し作成



作成帳票(手作業)

- ・測定結果総括表
- ・測定結果一覧表
- ・出来形管理図表
- ・出来形管理図
- ・度数表

情報化施工

TSによる計測



計測データ
を自動記録



電子野帳

出来形管理資料作成
パソコンで自動作成



作成帳票(自動作成)

- ・測定結果総括表
- ・測定結果一覧表
- ・出来形管理図表
- ・出来形管理図
- ・度数表

従来



情報化施工



平成25年度の情報化施工の取り組み

- 情報化施工の活用を促進し、工事の品質を確保
- 一般化技術については、技術の定着の必要性に応じて使用を原則化。一般化推進技術については、平成28年度の一般化に向け、目標活用率を設定して推進。

一般化技術

TS（トータルステーション）により出来形計測を行い、設計データとの差分を算出し、帳票を自動作成



取り組み：使用原則化

対象技術：TS 出来形管理技術（土工）10,000m³以上

一般化推進技術

主にMC（マシンコントロール）技術。TS等により位置・標高を取得し、マシンを制御



取り組み：試験施工、環境整備、広報活動

対象技術：

・ TS 出来形管理技術（土工）10,000m ³ 未満	H25目標活用率 60%
・ MC（モーターグレーダ）技術	60%
・ TS・GNSSによる締め固め管理技術	15%
・ MC/MG（ブルドーザ）技術	15%
・ MG（バックホウ）技術	15%